

重症熱性血小板減少症候群（SFTS）患者の発生について

県内の医療機関から東部保健所に、本県において本年5例目（死亡例として2例目）となるSFTSの患者発生の届出がありました。

SFTSの感染源となるマダニは、春から秋にかけて活動が盛んになることから、報道機関の皆様におかれましては、感染予防策（マダニに咬まれない対策）の周知に御協力ください。

1 患者の概要

届出年月日：令和7年7月30日

住 所：尾道市内

年代・性別：80代・男性

症 状：発熱、白血球・血小板減少、吐気、肝機能異常

経 過：入院加療後、7月31日死亡

推定される感染時の行動：畑作業

そ の 他：マダニの刺し口あり（左上腕）

2 患者確認に至った経緯等

7月24日 発症（発熱）

7月25日 入院

7月28日 主治医が症状からダニ類媒介感染症を疑い、保健所へ検査依頼（検体提出）

7月30日 県立総合技術研究所保健環境センターで遺伝子検査の結果、SFTS陽性

7月31日 患者死亡

3 重症熱性血小板減少症候群（SFTS）について

（1）重症熱性血小板減少症候群（SFTS）とは

SFTSウイルスと呼ばれる病原体を持ったマダニ類に刺咬されることによって感染する病気です。

マダニに咬まれて6日～2週間程度の潜伏期間後、主に発熱、消化器症状、時に頭痛、筋肉痛、リンパ節腫脹、出血症状等が出現します。

（2）過去5年の年別届出数は

SFTS	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年
全国	110例	118例	134例	122例	112例 ^{※1}
広島県 (うち死亡)	13例 (2)	8例 (1)	8例 (1)	10例 (1)	5例 ^{※2} (2)

※1：令和7年7月20日時点 ※2：令和7年8月4日時点、本事例を含む

（3）感染予防策

マダニに咬まれないようにすることが重要です。

- ・屋外活動時は長袖、長ズボン、足を完全に覆う靴、帽子、手袋を着用し、首にタオルを巻く等の対策を取ることで、マダニが服や髪の中に入り込めないようにしましょう。
- ・屋外活動後は、体や服をはたき、マダニが体についていないか確認しましょう。
- ・吸血中のマダニを見つけた場合は、できるだけ医療機関で処置してもらいましょう。
- ・マダニに咬まれた後に、発熱等の症状があった場合は、直ちに医療機関を受診しましょう。
- ・マダニに咬まれていても気づかない場合があります。マダニの活動が活発な春から秋の暖かい季節に野外活動をする方は、日常的に、発熱等の体調に気を付けておきましょう。

お 願 い

報道機関各位におかれましては、感染症法の精神に基づき、患者及び患者家族等について、本人等が特定されないことがないよう、格段の御配慮をお願いします。